

伴走型支援士養成へ初講座

日本福祉大が支援協と包括連携

【平田】日本福祉大学(愛知県美浜町)と一般社団法人日本伴走型支援協会

(福岡県北九州市)は15日、包括連携協定を締結した。

「伴走型支援士」の養成に向け、国内初のオンデマンドによる「伴走型支援基礎講座」を開講する。

同大東海キャンパス(東海市大田町)で開いた締結式には、同協会共同代表理



事・同大客員教授の奥田知志氏、同協会事務局長の高橋尚子氏、同大理事長の丸山悟氏、同大学の児玉善郎氏らが出席し、協定書に調印した。

伴走型支援士の認定には、同大が10月から2月末まで実施する基礎講座(15回)の受講と、同協会が同大、東京、大阪の3会場で実施するスクーリング(土日、2日間)の受講が条件となる。

基礎講座は1回90分。対象者は、伴走型支援に関心がある人、伴走型支援士を目指す人。オンラインによるオンデマンド方式を採用し、15回分がいつでも見られる。10月1日から15回分を一齐に配信する予定。受講料は税込み2万2千円。問

テキストが税別2千円。問い合わせは、同大リカレント教育事業部企画事業室(電話052・242・3069)まで。

協定締結式に参加した児玉学長、丸山理事長、奥田理事、高橋事務局長(左から)

問い合わせは、同大リカレント教育事業部企画事業室(電話052・242・3069)まで。